



平成24年度国立大学図書館協会シンポジウム  
「ラーニング・コモンズ再考」@千葉大学ALC  
2012年12月3日

# ラーニング・コモンズを再考する

---

小山 憲司

(日本大学文理学部)

koyama.kenji@nihon-u.ac.jp



---

# 本講演のきっかけ

- 加藤信哉, 小山憲司編著. 『ラーニング・コモンズ: 大学図書館の新しいかたち』勁草書房, 2012.



# 結論

---

- ラーニング・コモンズとは、大学図書館そのものである

# ラーニング・commons (Learning commons)

大学図書館における、学びのための共有スペース。

情報のデジタル化が急速に進んだ1990年代、PCを配置し情報収集や学習などが行えるIT環境を大学図書館内に設置するインフォメーション・commonsが米国で普及した。2000年代に入り、大学図書館の役割として、知識を深めるための資料・情報の提供だけではなく、学生が自主的に学び知識を創造する学習活動全般への支援が求められるようになり、大学内における多様な活動や学習を支援するサービスを利用できる場の1つとして図書館がラーニング・commonsへと移行していった。

インフォメーション・commonsの機能に加え、人数に合わせて自由に組み合わせられる可動式の椅子や机、ホワイトボードやプロジェクターなどを備え、ミーティングやプレゼンテーションを行うスペースを提供する。また、情報・資料の収集やレポート作成などの支援を行うスタッフを配置し、セミナーを実施したり、多様なコミュニケーションを可能にするカフェなども併設する。図書館サービスの在り方を変革するシステムとして、新しい図書館づくりの可能性を広げる。  
(2012.9)



# 本日のアウトライン

---

- ラーニング・コモンズ登場の2つの文脈
- コモンズのもつイメージの二面性
- ラーニング・コモンズ再考のポイント



# ラーニング・コモンズ登場の2つの文脈

---

- 大学教育改革
- 情報社会の進展(学術情報の電子化)と図書館



# 大学教育改革

月 日	政 策
2008年12月24日	「学士課程教育の構築に向けて(答申)」 (中央教育審議会)
2010年12月	「大学図書館の整備について(審議のまとめ) ー変革する大学にあって求められる大学図書館像ー」 (科学技術・学術審議会 学術分科会 研究環境基盤部会 学術情報基盤作業部会)
2012年8月28日	「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて(答申)～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～」 (中央教育審議会)

# 大学図書館の整備について(審議のまとめ)

## ー変革する大学にあって求められる大学図書館像ー

### 1. 大学図書館の機能・役割及び戦略的な位置付け

#### (2) 環境の変化と大学図書館の課題

#### ② 大学を巡る環境変化

(中略)

大学における教育に関しては、学生は授業を受けるだけでなく、より自発的な学習や実践の必要性が重視されてきており、大学図書館にもその支援の「場」の提供や図書館職員等による学習支援が期待されている。さらに、学生には前述のインターネット等の情報環境に対応できる知識やスキルを身に付けることが求められている。

# 大学図書館の整備について(審議のまとめ)

## — 変革する大学にあって求められる大学図書館像 —

### 1. 大学図書館の機能・役割及び戦略的な位置付け

#### (3) 大学図書館に求められる機能・役割

##### ① 学習支援及び教育活動への直接の関与

###### ア. 学習支援

最近の大学においては、学生が自ら学ぶ学習の重要性が再認識され、その支援を行うことが大学図書館にも求められている。近年、整備が進められているラーニング・コモンズ、図書館職員等によるレファレンスサービスや学習支援は、このような要請に応える方策といえる。

ラーニング・コモンズは、複数の学生が集まって、電子情報資源も印刷物も含めた様々な情報資源から得られる情報を用いて議論を進めていく学習スタイルを可能にする「場」を提供するものである。その際、コンピュータ設備や印刷物を提供するだけでなく、図書館職員等が、それらを使った学生の自学自習を支援することも重要である。

# 新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて ～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～

## 7. 質的転換に向けた更なる課題 (学修支援環境の整備についての課題)

第二の点は、主体的な学修の確立の観点から、学生の学修を支える環境を更に整備する必要があることである。学長・学部長アンケートでは、「きめ細かな指導をサポートするスタッフが不足」しているという課題意識が強い。その他、専任教員数の充実、**主体的な学修を支える図書館の充実や開館時間の延長**、学生による協働学修の場や学生寮等キャンパス環境の整備、奨学金の充実など、様々な意見や要望が寄せられた。学生が平日はアルバイト等を行うことなく学修に専念できる環境を整備すべきであるという指摘は、今日的に特に重要である。

# 新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて ～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～

## 8. 今後の具体的な改革方策

### ①速やかに取り組むことが求められる事項

#### (文部科学省等)

文部科学省等には、大学の主体的な取組を支える観点から、以下のような取組が求められる。

(イ) 各大学における全学的な教学マネジメントの下での改革サイクルの確立を促進するため、教学に関する制度の見直しを図るとともに、基盤的経費や国公立大学を通じた補助金等の配分に当たっては、例えば、組織的・体系的な教育プログラムの確立など、十分な質を伴った学修時間の実質的な増加・確保をはじめ教学上の改革サイクルの確立への取組状況を参考資料の一つとする。

その際、TA等の教育サポートスタッフの充実、**学生の主体的な学修のベースとなる図書館の機能強化**、ICTを活用した双方向型の授業・自修支援や教学システムの整備など、学修環境整備への支援も連動させながら充実する。

# 新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて ～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～

## 4. 求められる学士課程教育の質的転換 (学士課程教育の質的転換)

生涯にわたって学び続ける力、主体的に考える力を持った人材は、学生からみて受動的な教育の場では育成することができない。従来のような知識の伝達・注入を中心とした授業から、教員と学生が意思疎通を図りつつ、一緒になって切磋琢磨し、相互に刺激を与えながら知的に成長する場を創り、学生が主体的に問題を発見し解を見いだしていく能動的学修(アクティブ・ラーニング)への転換が必要である。すなわち個々の学生の認知的、倫理的、社会的能力を引き出し、それを鍛えるディスカッションやディベートといった双方向の講義、演習、実験、実習や実技等を中心とした授業への転換によって、**学生の主体的な学修**を促す質の高い学士課程教育を進めることが求められる。学生は主体的な学修の体験を重ねてこそ、生涯学び続ける力を修得できるのである。

# 参考：アクティブ・ラーニング

## 【アクティブ・ラーニング】

教員による一方向的な講義形式の教育とは異なり、学修者の能動的な学修への参加を取り入れた教授・学習法の総称。学修者が能動的に学修することによって、認知的、倫理的、社会的能力、教養、知識、経験を含めた汎用的能力の育成を図る。発見学習、問題解決学習、体験学習、調査学習等が含まれるが、教室内でのグループ・ディスカッション、ディベート、グループ・ワーク等も有効なアクティブ・ラーニングの方法である。

# 情報社会の進展と図書館

学習の場としての大学図書館を象徴する施設モデルであり、電子ジャーナルに代表される電子的な学術情報資源の普及により起こった「図書館不要論」や入館者数の減少という大学図書館の危機に対する図書館側からの解決提言とも言える。

(出典： 茂出木理子. ラーニング・コモンズの可能性：魅力ある学習空間へのお茶の水女子大学のチャレンジ. 『情報の科学と技術』58(7), 2008, p.341.)

# 大学教育とハイブリッド図書館の交差

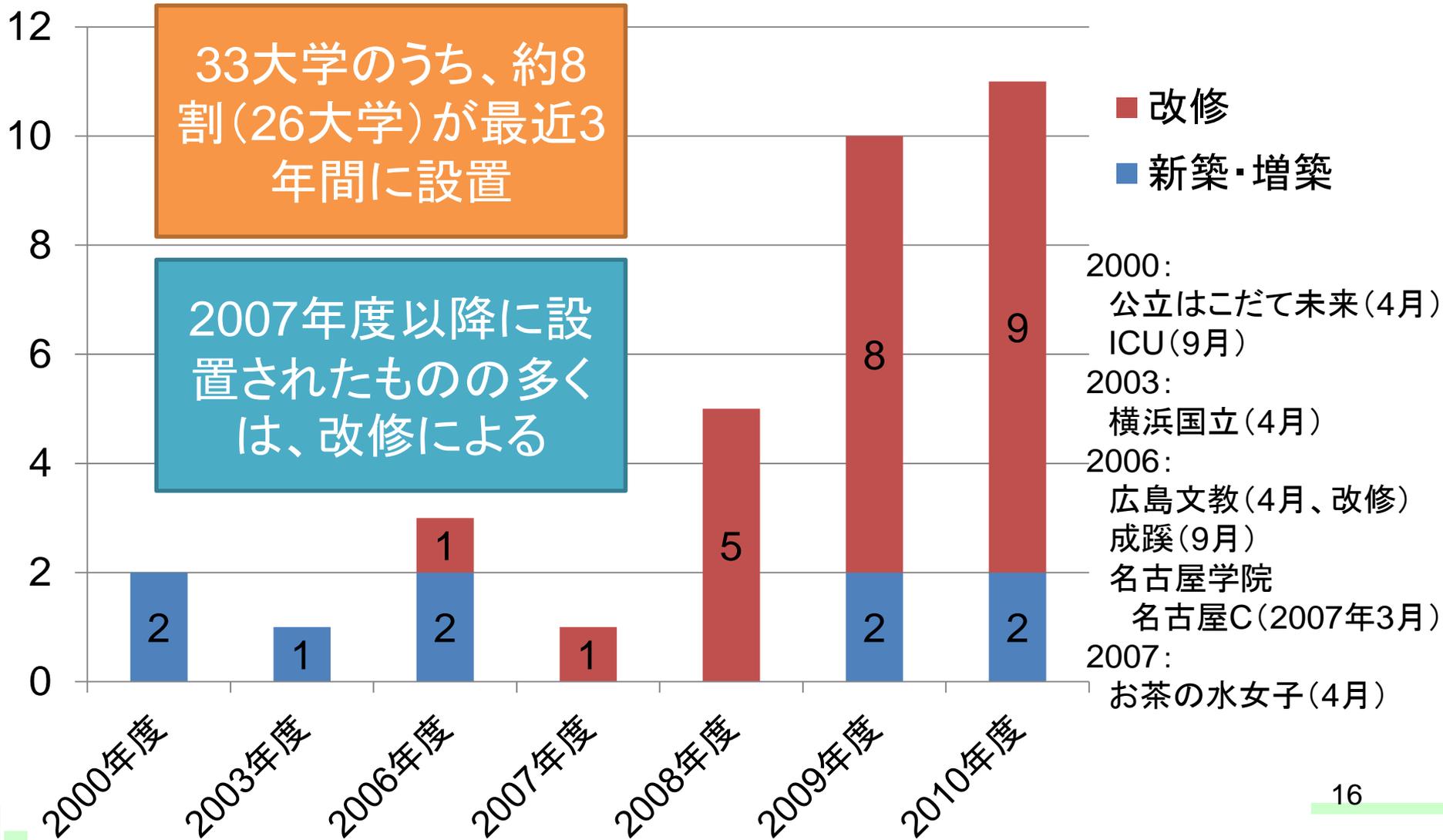
インフォメーション・コモンズからラーニング・コモンズへの転換は、学士課程教育の新たなパラダイム転換、すなわち学習理論が『知識の伝達 (transmission of knowledge)』から『知識の創出・自主的学習 (creation of knowledge and self-direction in learning)』に移行したことを反映したものである。

ネット世代の学生の学習・生活様式にフィットした、(中略)施設・設備を備えることが求められる



ラーニング・コモンズ＝  
ネット世代の学習支援を行う図書館施設もしくはサービス機能

# ラーニング・コモンズ設置の推移





# コモンズのもつイメージの二面性

---

- なぜ図書館にラーニング・コモンズを置くのか？

# コモンズのもつイメージの二面性

- 図書館外にラーニング・コモンズを設置した例
  - 広島工業大学
  - 大正大学
  - 三重大学
- 類似の施設は、学内にさまざまある
  - コンピュータ教室、ラウンジ ...



# 再考のポイント

---

- 図書館ならではのもの＝図書館の「強み」  
⇒ 大学図書館の再考ともいえる
- 図書館がもつメタファを最大限に利用する
  - 学習する場である
  - コンテンツがある

# 図書館のもつ「強み」

コンテンツ

学習する場



# 学習する場としての図書館

---

- 「学生にとって魅力ある学習空間」
- 知的好奇心を刺激する場所
- 自ら学びたいと思わせるようなしかけ

# 知的好奇心を刺激する場所

- あかりんアワー(千葉大学)



# 知的好奇心を刺激する場所

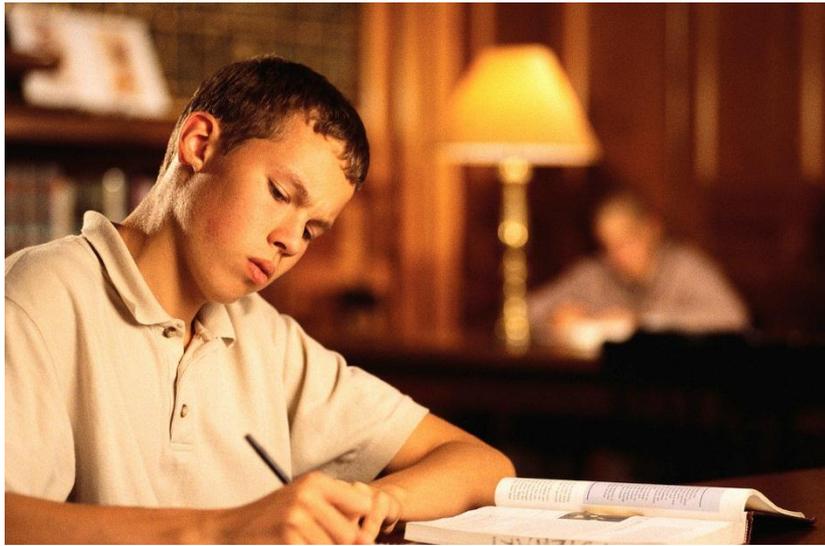
- あかりんアワー（千葉大学）



# 自ら学びたいと思わせるようなしかけ



# 学習する場としての図書館



孤独な学習

個別学習

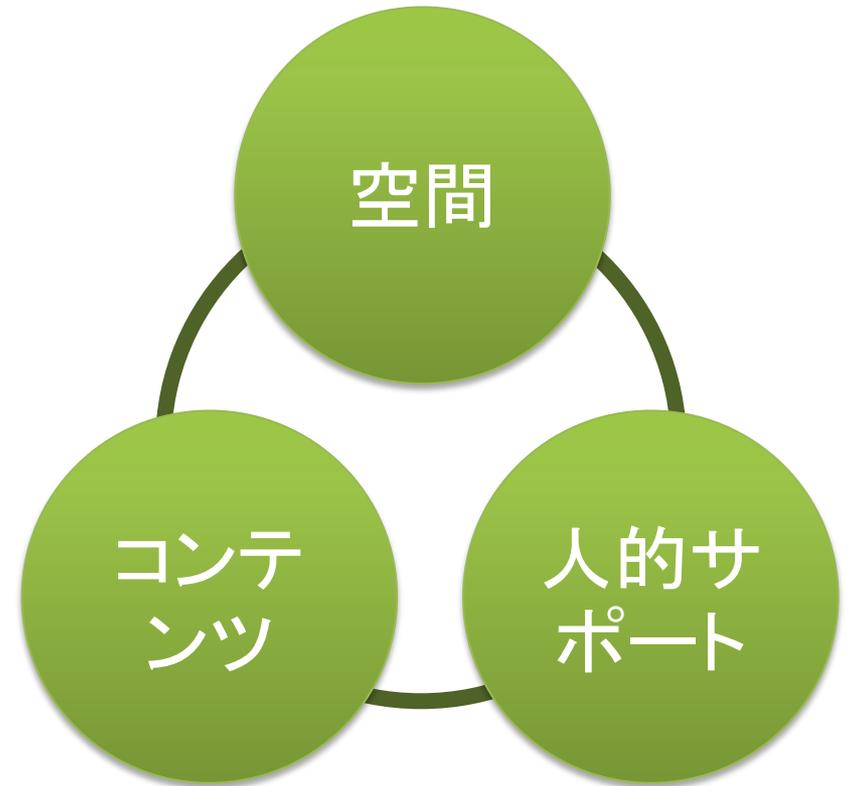
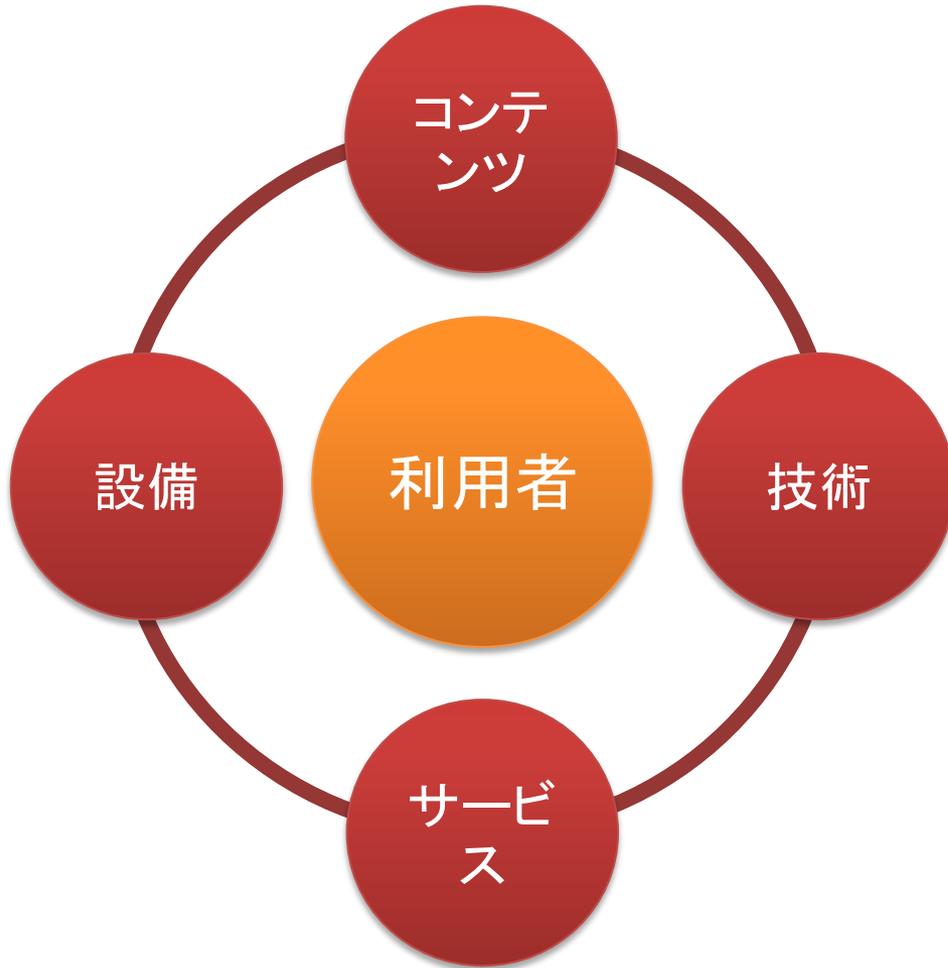


グループ  
学習

# 多様なコンテンツが利用できる

- コンテンツ(コレクション)
    - 印刷体資料、電子資料、デジタル・アーカイヴ...
- 
- 利用者のニーズにあったものを取り揃える
  - 利用に関する人的サポート
    - 探しかた
    - 使いかた
    - 管理のしかた
    - さまざまなサービスの紹介...

# ラーニング・コモンズの枠組み (構成要素)



By Dr. Joan Lippincott

竹内比呂也教授のプレゼンより

# 利用者に着目した 図書館の機能(コンセプト)

ラーニング  
commons

学生はどのように  
学習しているか

ティーチング  
commons

教員はどのように  
教育しているか

リサーチ  
commons

研究者はどのように  
研究しているか

いかにニーズを把握して、  
サービスをデザインできるか

# 図書館(員)はなにをする？

- 外部との積極的なコミュニケーション
  - アウトリーチ
  - リエゾン
  - エンベディット

(参考: 鎌田均. 動向レビュー:「エンベディット・ライブラリアン」:図書館サービスモデルの米国における動向. カレントアウェアネス, No.309, 2011. <http://current.ndl.go.jp/ca1751>. (accessed 2012-11-28).)

- 外部との積極的なコラボレーション
  - 教員
  - 職員
  - 学生

教員は、ネット社会に抗して、文献を利用することで、学習が進むように授業を組み立てる必要がある。  
図書館も、蔵書構成を不断に見直し、学生教育に密着した蔵書構成を実現しなければならない。

そのためには、職員は教員と共同するとともに、教員の教育活動を理解し、かつ意見を持てる力量を養わなければならない。

図書館と図書館職員が、大学の基本的責務である学生教育をいかに担うかと言い換えてもいい。職員は、学生が必要としている文献について、少なくとも探索する手段に関しては、学生以上に精通して当然である。

ご清聴ありがとうございました

